



ともいび

Vol.62

発行 令和4年7月1日

揮毫 村山峰子



句碑公園（川西） 写真提供：（一社）十日町市観光協会

融和的な社会へ向けて



十日町・津南地区保護司会

会長 三輪満雄

連日の新聞記事の一面は、残念ながらコロナウィルス関連とロシアのウクライナ侵攻で埋まり、明るく前向きな話題が乏しい毎日です。

さて、本年も法務省主唱で、犯罪や非行のない明るい地域社会を築こうとする「社会を明るくする運動」が始まり、七月は強調月間となります。犯罪や非行の背景には、望まない孤独や社会的孤立など、地域における様々な「生きづらさ」が存在していることが少なくありません。安全に安心して暮らしていきたいという誰もが抱く願いは、この「生きづらさ」に寄り添う草の根の活動であり、人と人々が支え合うコミュニティを通じて実現されていきます。

現在、十日町・津南地区に四十二名の保護司がボランティア活動として籍を置き、犯罪や非行をした人たちの立ち直りの支援活動と、犯罪や非行を生まない地域創りの予防活動を更生保護の両輪と位置付けております。地域社会が平穏で協調性のある穏やかな暮らしを続けるには、対決型でなく、人々が寄り添いながら知恵を出し融和的な社会を築く必要があります。私たち保護司はさまざまな相談事・悩み事にも積極的に関わっております。このことが、明るい地域づくりに繋がると確信し、自己研鑽を重ねながら活動を続けてまいります。

地域の皆様方には、「愛の協力運動」にご理解をいただき会費の納入にご協力を願っておりますが、引き続きよろしくお願い致します。

世の中が不安定で心痛める事件や事故が多い時代ですが、瞳を未来に向けながら、くじけず前向きに手を携えながら、前進したいと願っております。

明るい社会実現のために

みんなで考えたいこと



久しぶりの日常

十日町分区

渡邊 玄貴

先日五月三日は三年ぶりのきものまつり、成人式が執り行われました。

これにあわせ保護司会においても更生保護女性会の皆さんと街頭においての啓発活動を行いました。久しぶりの街のイベントに足を運んでみると、華やかな振袖姿の新成人をはじめ、道ゆく人々の和の装い、食欲をそそる屋台の匂いで本町のアーケードは賑わいをみせていました。もちろん感染対策を十二分に気をつけながら参加者それぞれが、

お祭りを楽しんでいたのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの騒動により毎年恒例だった行事が悉く中止となっていた昨今、今まで通りとはいかないなか、ようやく前進してきたと感じることができました。

自粛下の生活は人々を孤独にしました。孤独な時間は人の判断を鈍らせ、そこにつけこまれ犯罪に遭ってしまいう、もしくは加担してしまうといった事件をよくニュースなどでみる気がします。

対象者との面談に限らず、人と触れ合う時間というのは、自分の感覚を理解する大切なツールなのだとこの二年間で痛感することが多々ありました。スマートフォン片手

に誰かが作った動画をひたすら見続ける一方通行のコミュニケーションだけにできる情報に限りがあります。同じ空間で体感、実践しながら成長することは何物にも変えられない貴重なものなのだと感じています。早くお互いに素顔を合わせながら話せる日が来ることを願いながら、今後の活動に邁進してまいります。

リハビリ

川西分区

星野 正五

元法務大臣の谷垣禎一氏の話が、新聞にでていました。

「リハビリには、二つの意味があります。一つは、傷痍軍人らが身体機能を回復させて社会生活に復帰するための訓練。もう一つは罪を犯して刑務所に入った人が社会に復帰するための訓練。どちらも『リハビリ』です。社会復帰をしようと思ったら、自分でできることは段階的にやれるようにしていかなければならないし、支援する公的制度もなくてはならない。自助、互助、公助のバランスが大事。そういうこともあって、政界引退後、全国保護司連盟の理事長を引き受けました。」と、記事にありました。

英語のリハビリ（テーション）には、アルコール、麻薬中毒者や犯罪者の社会復帰訓

練の意味もあるとの記述があります。

保護司は、令和三年一月時点で、全国に四万六千人。平均年齢が六十五才で、七十才以上が三十五、四％ということです。

ウクライナ

惨劇に人を想う

中里分区

藤田 求

コロナショックで世界が振り回されている最中に、ロシアによるウクライナへの国際法を無視した軍事侵攻。営々と築かれてきた伝統と文化の平穏な街が突然無慈悲な戦場と化し、人も街も全てが破壊し尽くされ焦土とされてしまった…。

片や道を踏み外し、罪を犯した人を何とか社会復帰できるようにと願い、寄り添おうとする人もいるかと思えば、国家という最高権力を使って隣国に押し入り、破壊、略奪、殺人の限りをやってのけ、そのすべてを身勝手な正義と大義、理屈を並べて自己正当化

する。そこには何の良心の呵責もなくやりたい放題のことを平然とやってしまう。そんなことがこの現代に起こり得ると誰が想像しただろう。

私の友人が語ってくれた話を思い出した。

——口ケットに乗せられ宇宙から地球を見た。すると、地球が真っ赤にただれていて、海だろうが、噴火のようにあちこちボコボコと沸騰している。その様子から地球は苦しそうに喘ぎ、瀕死の状態だと分かった。とその時、大音響がとどろいた。「この滅びかけた地球を見よ！こうなったのは、人間の責任だ！」友人は飛び上がって目を覚ました。あまりの衝撃と恐ろしさに全身汗でビショビショに濡れていた。——

話を終えて友人の口から「この命を差し出して世界が救われるのなら、礫にでも何でもしてもらって構わない。」とぼそりと言葉がこぼれた。天からの声を聴いてしまった彼は、人間の中にある闇の深さにおののき、自ら恥じて天に祈り、わが身を差し出しても何とかしたいと願うしかな

かったのだ。

人間は個人でも集団(国家)でも、未だに不完全極まりない。何をやらかすか分からない、地球上で最も厄介で危うい存在だ。同時に、人間は素晴らしい可能性も併せ持った、地球の重さにも匹敵する尊厳を備えていることを多くの人は認め、そうありたいと願うだろう。悪にも染まりやすいが、善なる心、良心も育み、育てることもできる。友人が願ったように私も、人を信じて思いやりを持つて関わり、ささやかでもいい、人間賛歌を歌える世界を共に創ってゆきたいと願わずにいられない。

今、できないうち…

松代松之山分区分

小堺 月子

あの大雪からあつという間に雪も消え、新緑の候、誰もお出掛けしたくなる季節となつて参りました。

高齢者世帯が多くなつて参りました今日、お互いに助け

合い、支え合つて行かなければなりません。四季の豊富な住み慣れたこの故郷で生活したいと誰もが願っています。都会で生活している子供達が同居を勧めても住み慣れたこの土地で、安全安心なまちづくりと犯罪の少ないこの十日町市で誰だつて住みたいのだと思います。お互いに支え合

うまちでありたいものです。私はもう高齢でありながら、歳を振り返ることなく声を掛けられるとつい一度返事で引き受けてしまいます。「待て待て大丈夫かい？」と自分にブレーキのペダルを踏むことがあるくらいです。たった一回のふれあいからでもずっとお付き合いが続くことがあります。話が尽きない時もあります。

また、イベントへの参加、ボランティア活動への参加、いつまでも元気でいたいと健康教室、いきいきサロンの開催、最近「何かあつたら声を掛けてね」と話しておく、一人で山菜採りに出掛けるとの連絡。そんな連絡があると現地まで車で送りたいとなつてしまします。送迎して山菜採

りの状況の報告でひと安心です。病院に診察送迎の依頼があり自宅まで、些細なことでも声を掛けていただけること

私の体験

津南地区更生保護女性会

福崎 やう子

私が中学校一年生の時だったと思います。冬の雪道を私の前を私より一歳年上の女の子が歩いていました。そして私より一歳年下の悪ガキと言われる男の子が前から歩いて来ました。何も無ければいいが、と思いつつ下を向いて歩いていたら、その悪ガキが膝をくの字に曲げて前を歩いていて女の子の足にヒョいと足を引掛けて掬いました。女の子は体勢を崩してヨロヨロとよろけて転びそうになりました。そしたら悪ガキがもう一度女の子の傍に行つて足を引掛けようとした。女の子の怯えた目が私を見まし

た。私はかわりたくないなあという思いと、これは助けなくてはならないという思いが一瞬交差したけど、思い切つて「やめな」と止めに入りました。そしたら悪ガキが私の目をじつと見て二度目の引掛けるのをやめて通り過ぎました。その体験が私の心に力を与えてくれました。弱い人は助けよう。弱い立場の人は助けよう。大袈裟なものではなく、私の心の中にひっそりと育つ種子を置かれた出来事でした。それから六十年以上経ちました。その種子は大事に育てて来たつもりです。人は共に生きる動物です。私もどんなにか人に支えてもらつた事でしょう。自分が生きていく範囲の中で弱い人にはそつと寄り添って行きたいと思ひます。主義とか制度とは違う人間の根源的な心のあり方を大事にしたいと思ひます。



第72回“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

犯罪や非行の背景には、望まない孤独や社会的孤立など、社会における様々な“生きづらさ”が存在していることが少なくありません。安全に安心して暮らしていきたいという誰もが抱く願いは、この“生きづらさ”に寄り添う草の根の活動、そして、人と人々が支え合うコミュニティを通じて実現されていきます。

犯罪や非行の防止と立ち直り支援は、国や地方公共団体が一体となって推進していくとともに、保護司をはじめとする民間協力者、そして、地域の多くの方々の御理解と御協力をいただきながら、社会全体で取り組むことが大切です。“生きづらさ”を抱える人、再出発を図ろうとする人の誰もが社会に受け入れられるよう、分野を超えて、それぞれの立場で創意工夫を凝らしていただきながら、包摂的な社会を実現してまいりましょう。

国民の皆様には、「社会を明るくする運動」の社会的意義を御理解いただき、犯罪のない明るい地域社会づくりに取り組む決意のしるしである「^{しあわせ}幸福の黄色い羽根」のもと、本運動に御参加いただきますよう御協力をお願いいたします。

内閣総理大臣 岸田文雄

令和4年度
春の褒章

藍綬褒章

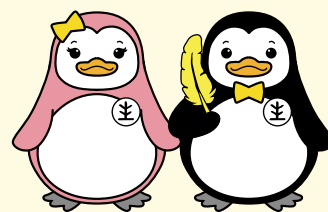
津南地区保護司

滝沢紀子様

受章おめでとうございます
ございます

幸せの 黄色い羽根

犯罪のない幸福で明るい社会を願うシンボルマークです。地域の安全・安心のため、犯罪や非行のない明るい社会づくりへのご協力をお願いします。



更生ペンギンの
サラちゃん

更生ペンギンの
ホゴちゃん

「愛の協力運動」 会費納入のお願い

毎年7月を強調月間として、第72回“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～が展開されます。この活動を推進するための「愛の協力運動」新潟県保護観察協会会員募集による、会費納入にご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございました

令和3年度皆様からお寄せいただいた「愛の協力運動」新潟県保護観察協会会員募集による会費は、県全体では**75,961,897円**（内、十日町・津南地区**3,019,506円**）で、次のような事業に使わせていただきました。

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| 1 “社会を明るくする運動”をはじめ通年の犯罪・非行防止、社会浄化活動費 | 39,248,855円 |
| 2 更生保護施設への助成及び保護観察を受けている者への更生援助金 | 2,046,000円 |
| 3 研修・研究・矯正施設等視察諸経費 | 6,325,187円 |
| 4 関係機関・団体との連絡調整費 | 1,490,201円 |
| 5 更生保護協力団体（更生保護女性会、BBS会、健全育成団体等）への助成費 | 10,137,286円 |
| 6 運動諸経費（趣意書作成費、郵送料、連絡費、人件費等） | 16,714,368円 |
| 7 会員数 ・協力会員…343,819人 ・普通会员…1,569人 | |
| ・賛助会員…486人 ・特別会員…4人 ・合計…345,878人 | |